

ケアマネジメントにおける意思決定支援の現状と課題 ～介護支援専門員へのインタビュー調査から見てきたこと～

居宅介護支援事業所ヴィターレ 長澤由希子

要旨

介護支援専門員が考えるケアマネジメントでの意思決定支援の現状と課題について、調査した。結果は、面接技術を用いて本人の意思意向を確認する一方で、家族の意向の優先やパターンリズムが示唆された。意思表出での困難さや死を話題にする抵抗感、家族介護者に対する思慮が確認された。

1 目的

介護保険制度の基本理念は、尊厳の保持と自立支援である。しかし、ケアマネジメントにおいて本人の意思決定を必要とする場面で、“本人不在”の現状が少なくない。そこで、介護支援専門員が考えるケアマネジメントでの意思決定支援の現状と課題について、調査を行った。

2 方法

介護支援専門員 8 名に個別で半構造化面接を実施した。調査期間は 2023 年 4 月～5 月。インタビューの録音データから逐語録を作成した。作成した逐語録をコードに分け、類似性をもったコードに名前を付け、サブカテゴリに分けた。さらに類似性のあるカテゴリに分け再編し、検証した。倫理的配慮として、調査対象者に事前に口頭で研究の趣旨と質問内容、個人が特定されることはないこと、得られたデータは調査終了後に破棄することを説明し同意を得た。インタビューは長時間にならないよう配慮し、平均 25 分であった。

3 結果

【本人主体の意思決定支援】【本人の意思に反する意思決定支援】【本人が望む人生を送るための意思決定】の 3 つの大カテゴリで構成された。

【本人主体の意思決定支援】の大カテゴリは、＜意思決定に影響するシステム要因＞をカテゴリとして「本人と家族の関係性と環境」「介護支援専門員と家族介護者の関係性」「意思決定を支えるチーム支援」「意思決定に影響する生活環境」のサブカテゴリで構成された。さらに＜意思決定支援で意識する面接技術＞をカテゴリとして「意向を聞き取るタイミング」「アセスメントと意向の確認」「変化する意思をあるがまま受け止める」「説明と同意を得る」「代弁する」「関わった時間で本音を聞きとれる」「わかりやすい言葉で伝える」のサブカテゴリで構成された。

【本人の意思に反する意思決定支援】の大カ

テゴリは、＜意思が表出しづらい要因＞をカテゴリとして「身体機能と認知機能の低下に伴う意思表示の困難さ」「個性や意思を伝える力」「制度の知識と理解、必要性」のサブカテゴリで構成された。また＜意思決定の過程で困難さを感じる場面＞のカテゴリ、サブカテゴリと、＜家族と支援者の意向を押し付け誘導＞のカテゴリは、「家族の意向を確認」「パターンリズム」のサブカテゴリで構成された。

【本人が望む人生を送るための意思決定】の大カテゴリは、＜望む人生を送るための意思決定＞のカテゴリ、サブカテゴリで構成された。

4 考察

ケアマネジメントにおいて、本人をとりまく多様なシステム要因が意思決定に影響している現状が確認された。また、介護支援専門員は面接技術を用いて本人の意思意向を確認する一方で、家族の意向の優先やパターンリズムが示唆された。本人の認知機能だけではなく、高齢による心身機能の変化や疾患、個性による意思表出の困難さが明らかになった。家族や支援者による押し付け誘導になっている意思決定の過程に課題が見えた。本人に対し死を話題にする抵抗感、家族介護者に対する思慮が確認された。

5 まとめ

ケアマネジメントでの意思決定支援は、本人をとりまくシステムとその力動が影響すると考えられる。また、本人を主体とする意思決定支援と家族介護者支援を含めたケアマネジメントが複雑に絡み合っていると推察され、さらなる調査で深める必要がある。意思表出では、面接技術と併せた取り組みが必要だと考えられる。

参考文献

松本佳代「高齢者の意思決定支援において医療・福祉専門職に求められるファシリテーションスキル」社会関係研究第 26 巻第 2 号(2021 年 3 月)